

# 1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1271600510
法人名	医療法人社団寿光会
事業所名	グループホームいきいきの家成田
所在地	〒286-0844 千葉県成田市宝田362-2 (電話) 0476-23-8711

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年10月10日	評価確定日	12月17日

【情報提供票より】(19年9月27日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 7人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	食39,000+水光熱20,000+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:4年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(9月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	71 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	成田病院
---------	------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

成田空港や大型ショッピング街から10数分という便利な環境にありながら、山林や田園風景に囲まれ、眺望にも恵まれて上質の安らぎを得ることができる。居室には入居者自筆の掛け軸や、手作りの装飾品が飾られ、家庭的な雰囲気が感じられる。職員は「いきいき、健やか」の理念を共有し、質の高いケアを目指す意識が高い。近くの住人が気軽に立ち寄り、温かい交流が育まれており、地域での今後の活躍が期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	金銭管理では、買い物で入居者に支払ってもらう機会をつくるなど、具体的な取組みを始めている。日常の様子について報告書を作成し、定期的に家族に送っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員自身が作り上げた理念を共有し、質の高いケアを目指して生き生きと取り組んでいる様子が感じられる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は開催されているものの、出席者は市の担当者とホーム関係者に留まっており、今後、幅広い参加や内容の充実への取組が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	重要事項説明書に苦情相談窓口が明記されている。報告書を作成して家族連絡に使用しており、家族にも好評である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会の回覧を通じて、地区の行事に積極的に参加している。食材料や日用品は、地域のお米屋さん、酒屋さんに配達してもらうなど、地域の人々がホームに来所する機会を多くする工夫をしている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いきいきと健やかに」「安心した生活」の理念は、開設時に全職員の意見を集約して作り上げたもので、しっかりと共有されている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は全職員で作成し、常に念頭において日々のケアにあたっている。玄関の目に付きやすい所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の清掃やお祭りなどに参加している。散歩を通じて地域と交流し、近隣住人が花や手作りの飾りものを届けてくれる。近隣のお米屋さんや酒屋さんに日用品を配達依頼し、ホームを知ってもらうきっかけにしているため、地域との交流が一層期待される。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価によって気付かずにいたことがわかり、改善へ向け取り組んでいる。法人の意向が定期的に示され、常に改善についての意見交換ができています。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開いているが、市職員の参加に留まっており、地区の区長、民生委員、入居者家族などの参加が課題となっている。		地区の区長、民生委員、入居者家族など、地域の幅広い関係者の参加が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホーム6事業所で連絡協議会を立ち上げ、3ヶ月に1回会議を開き、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の様子について報告書を作成し、家族に送付している。金銭管理面では、前回調査で期待される項目として指摘されているが、まだ実施できていない。		改善シートで金銭管理の支援と出納帳作成、お金を持つことのできる支援を挙げているので、具体的な取り組みが期待される。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族、区長、民生委員、市職員に運営推進会議の連絡をしている。出席できなかった場合は議事録を送っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員移動は、入居者の反応を見ながら実施している。馴染みの職員がいることで、入居者が安心できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	接遇研修を行い、職員の経験や資格に応じて内部研修、外部研修を行なっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族と相談しながら、日中だけの利用や体験入居をしながら、徐々に慣れ、安心できるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に家事をこなしたり、日常生活の場面で入居者から知恵を授けてもらうなど、支えあう関係を目指している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>生活歴の記録から情報を得るとともに、日々の生活の様子、会話や表情などから入居者の思いや希望を把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者が、入居者や家族の意見を反映させている。現在、センター方式への移行に取り組んでいる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に会議を開き、全職員で意見交換し、課題を明確にした見直しを図っている。見直し以前に対応が必要な場合も、臨機応変に対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要な通院のほか、協力医療機関から医師が月1回訪問診療しており、看護師が毎週、巡回に訪れる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者と家族の意向を尊重し、かかりつけ医の受診が可能な体制を整えている。協力医療機関の訪問診療や訪問歯科など、複数の医療機関との関係を構築している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族やかかりつけ医と協議し、方針を共有している。特に終末期ケアは、家族と同意書を交わした上、かかりつけ医の指示の下、見取り看護できる体制を整えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への尊敬の念を重んじ、採用時には理念の共有を図り、その後も定期的に接遇の向上に関する研修会を行っている。個人情報も厳重に管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の流れはおおまかに定められているが、職員側の都合を優先することなく、入居者一人ひとりのペースを尊重し、柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	専門業者から栄養管理された食材を購入し、職員は入居者と共に、見守りながら食事を楽しんでいる。準備や片付けなども、できる範囲で入居者と共に行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は限定せず、入居者の希望で入浴を支援している。浴用リフトを導入し、負担の少ない安全な入浴ができる体制である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の食事や掃除、朝刊の受け取り、自家菜園の手入れなど、入居者の自主性を尊重しながら、役割や楽しみごとを作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中は2ユニット合同のラジオ体操を行い、散歩や外出支援を行っている。外出は、ドライブや買い物、入院中の入居者への御見舞いなどを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、防犯目的以外の施錠が身体拘束にあたることを理解しており、夜間帯の午後7時から翌午前7時以外の施錠は行っていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で防災・避難訓練を年2回行っている。消火器を用いた実地訓練、戸外への避難誘導を時間を測定して行うなど、積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者がカロリー計算した食材を購入し、入居者一人ひとりの状態に応じた調理の工夫に努めている。食事・水分の摂取量も記録し、変化が生じた場合に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に、夏はよしずを、冬はこたつを設置し、季節感を出している。採光も良好で、明るく清潔感がある。入居者の手作りの装飾品に、家庭的な温かみを感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の馴染みの物が置かれており、居心地の良さに配慮されていることが感じられる。		